



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

29日

ドル円は3月米個人消費支出(PCE)が強い結果となったことで一時111.90円まで上昇。もっとも、節目の112.00円がレジスタンスとして意識されると次第に上値が重くなった。

30日

対ユーロなどでドル安が進んだ流れに沿って、ドル円は一時111.24円まで下押しした。その後は111円台半ばまで下げ渋ったものの、戻りは限られた。

1日

4月米ISM製造業景気指数が予想より弱い結果となったほか、FOMCで超過準備預金金利(IOER)の引き下げが決定されると、ドル円は一時111.05円と4月11日以来の安値水準まで下落した。もっとも、パウエルFRB議長が記者会見で「インフレ低下は一時的」「金利はいずれの方向にも動かす強い論拠が見られない」などの見解を示し111.61円まで一転して買い戻された。

2日

ドル円はシカゴ日経平均先物の上昇を受けてアジア時間に111.67円まで上げたものの、その後は買いも一服。米雇用統計の発表を翌日に控えていることもあり、次第に方向感が乏しくなった。

3日

4月米雇用統計で非農業部門雇用者数や失業率が予想より強い結果となり、ドル円は一時111.69円まで値を上げた。もっとも、平均時給やその後に発表された4月米ISM非製造業指数などは予想を下回る結果となったため、一巡後は111.07円まで反落した。

総括

先週のドル円はさえない動きとなった。週明け29日には111.90円まで上昇する場面があったものの、節目の112.00円がレジスタンスとして意識されると次第に上値が重くなった。1日にはFOMCでIOERの引き下げが決定されたことを受けて一時111.05円まで下押し。パウエルFRB議長の発言を受けて早期の米利下げ観測が後退するといったんは下げ渋ったものの、週末3日には米雇用統計の平均時給が弱い内容となったことなどを受けて111.07円まで再び値を下げた。

先週の注目された経済指標結果

| 日付 | 時刻 | 曜 | 通貨 | 指標名 | 比 | 月 | 前回値 | 改定値 | 予想値 | 結果 |
|-----|-------|---|-----|----------|-----|-------|------------|--------|------------|------------|
| 30日 | 18:00 | 火 | EUR | GDP速報値 | 前期比 | 1-3月期 | 0.2% | | 0.3% | 0.4% |
| 1日 | 21:15 | 水 | USD | ADP雇用統計 | 前月比 | 4月 | 12.9万人 | 15.1万人 | 18.0万人 | 27.5万人 |
| 1日 | 23:00 | 水 | USD | ISM製造業指数 | * | 4月 | 55.3 | | 55.0 | 52.8 |
| 1日 | 27:00 | 水 | USD | FOMC政策金利 | * | * | 2.25-2.50% | | 2.25-2.50% | 2.25-2.50% |
| 1日 | 27:30 | 水 | USD | FRB議長会見 | * | * | * | * | * | * |
| 2日 | 20:00 | 木 | GBP | MPC政策金利 | * | * | 0.75% | | 0.75% | 0.75% |
| 3日 | 21:30 | 金 | USD | NFP | 前月比 | 4月 | 19.6万人 | 18.9万人 | 18.5万人 | 26.3万人 |

一言コメント・・・注目のFOMCでは超過準備預金金利 (IOER) が従来の2.40%から2.35%に引き下げられたことが判明。序盤はドル売りで反応しました。ただ、IOER引き下げが「小幅な技術的調整」との見解が示されるとドル買い戻しが優勢となりました。週末の米雇用統計では賃金の伸びが予想を下回りドル売りがさらに進みました。

先週の注目された要人発言

30日17:25 トルコ中銀「新たな引き締めサイクルもあり得る」
 1日00:07 ポロズBOC総裁「下期に経済が加速すると信じるに値する正当な理由ある」
 1日23:19 メイ英首相「EU離脱という政府方針は変わらず」「ブレグジットに対する不透明感を出来るだけ早く取り除かなければならない」「ブレグジットについて、次に何が起こるかは政府以外の要因にもよる」
 2日03:00 FOMC声明「労働市場は依然として堅調で、経済活動は堅調な伸びを示している」「ここ数カ月の平均雇用者数は増加しており、失業率は低いまま」「前年同月比で見ると、全体のインフレ率と食料とエネルギー以外のインフレ率は低下し、2%を下回っている」
 2日03:32 パウエルFRB議長「インフレはいくぶん弱まっている」「インフレは一過性の要因が作用している可能性」「貿易交渉は進展し、ハードブレグジットのリスクは低下していると認識」「超過準備預金金利は小幅な技術的調整。政策シフトではない」「金利はいずれの方向にも動かす強い論拠が見られない」
 2日19:04 エルドアン・トルコ大統領「インフレや為替が望ましい水準となるために、さらなる利下げを決意」「自由市場の規則の範囲内であらゆる措置を講じる」
 2日20:00 MPC議事要旨「0.75%の政策金利の据え置きを9対0で決定。資産買い入れプログラムの規模の維持を9対0で決定した」「インフレを保つために1回以上の利上げが必要な兆候」
 2日20:37 カーニーBOE総裁「世界の緊張は2月よりは緩和した」「今年の世界成長は穏やかに上昇すると見込む」「見通し通りなら予想以上の利上げが必要」

一言コメント・・・FOMC声明文は「労働市場は依然として堅調で、経済活動は堅調なペースで拡大した」と米景気認識が上方修正された一方、インフレについては総合・コアともに「2%を下回っている」とされました。一方、FRB議長は米政権からの利下げ圧力が強まるなかで、「短期的な政治の意向は考慮しない」と強調しました。

今週の経済指標

| 日付 | 時刻 | 曜 | 通貨 | 指標名 | 比 | 月 | 前回値 | 改定値 | 予想値 |
|-----|-------|---|-----|------------|-----|-----|---------|-----|---------|
| 7日 | 13:30 | 火 | AUD | RBA政策金利 | * | * | 1.50% | | 1.50% |
| 8日 | 08:50 | 水 | JPY | 日銀議事要旨 | * | * | * | * | * |
| 8日 | 11:00 | 水 | NZD | RBNZ政策金利 | * | * | 1.75% | | 1.50% |
| 9日 | 21:30 | 木 | USD | PPI | 前月比 | 4月 | 0.6% | | 0.2% |
| 9日 | 21:30 | 木 | USD | 貿易収支 | * | 3月 | -494億ドル | | -512億ドル |
| 9日 | 21:30 | 木 | USD | 新規失業保険申請件数 | * | 前週分 | 23.0万件 | | 22.0万件 |
| 10日 | 21:30 | 金 | USD | CPI | 前月比 | 4月 | 0.4% | | 0.4% |

今週の注目は・・・豪・NZ政策金利

週刊マーケットアナリシス 会員専用版レポート

会員サイトログイン後のページで
ご確認ください

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のFXi24コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - よろずのつぶやき
 - エマージングアウトトラック

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。